

2021年11月22日

報道関係各位

中部学院大学短期大学部
幼児教育学科

保育士・幼稚園教諭を目指す学生が

森林文化アカデミーで「ぎふ木育」の学びを深める

中部学院大学短期大学部幼児教育学科（学科長 杉山祐子）では、「ぎふ木育ビジョン」の1つである「ぎふ木育」について学びを深めています。

ぎふ木育は、岐阜県が誇る木と共生する文化を将来へつないでいくための取り組みで、豊かな自然を背景とした「森と木からの学び」と定義されており、子どもから大人までが対象。本学ではこれまで、大学の附属施設である子ども家庭支援センター「ラ・ルーラ」（各務原キャンパス）が、県内で第1号となる「ぎふ木育ひろば地域支援拠点」の認定を受け、活動の幅を広げています。

「木育」は、子どもの時から、自然に親しみ森林を身近な存在に感じながら、遊びを通じて共生を学ぶため、本学幼児教育学科では、保育者を目指す学生にとって非常に重要であると位置付けています。現在、1年生全員が「ぎふ木育」について学んでおり、2年生の杉山教授のゼミ（学生12名）では、より専門的・実践的に学びながら、地域貢献に生かすための活動につなげています。これらの取り組みは、国連の持続可能な開発目標（SDGs）における「11 住み続けられるまちづくりを」「15 陸の豊かさを守ろう」を意識しています。

今回の研修の目的の一つは、木育の理念をより深く理解し、子どもたちにしっかり伝えられるようにすることです。森林文化アカデミー（美濃市）の森林総合教育センター（研修施設）「morinos（モリノス）」で「ぎふ木育研修プログラム」を受講し、木育の活動を学んだり、森林を探索したりします。

研修後は、本学が地域包括連携協定を結び、2017年度から継続して連携活動を展開している美濃加茂市において、「木育を活用した地域の子育て支援」の提案を行う予定です。

そのほか、中国からの留学生1名も参加します。本国の教育系大学を卒業後、日本の“心を育てる”保育に注目し、国際的な保育の視点を深めるため、本学に留学して学んでいます。日本の豊かな自然を生かして心を育てる保育について学んだことを、自国の子どもたちや保育者に伝えたいと「木育」にも積極的に取り組んでいます。

記

- 日 時 2021（令和3）年12月1日（水）午前9時30分～午後0時30分
- 場 所 岐阜県立森林文化アカデミー「morinos（モリノス）」
（美濃市曾代88 電話0575-35-2525）
- 研修内容 morinosu の見学・木育の活動
森林探索 樹種説明 あそびの紹介 ワークショップ ほか
- 参加者 12名（幼児教育学科 杉山ゼミ生 中国人留学生1名含む）

以上

（本件に関するお問い合わせ先）

中部学院大学 地域・産学連携課（担当：浅野）TEL 0575-46-7158